

令和8年度 港区立小中一貫教育校お台場学園

港陽小学校・港陽中学校 学校経営計画

令和8年4月1日 校長 吉野達雄

「港区ビジョン」や「港区学校教育推進計画」を踏まえ、学校運営協議会を設置した小中一貫教育校として、魅力ある教育活動を創造・展開することにより、徳・知・体の調和のとれた「生きる力」の育成を図る。

港区の学校経営の視点

- 1 児童・生徒が安全で安心して過ごすことができる学校づくり
- 2 子どもたちがいきいきと楽しく学ぶことができる学校づくり
- 3 保護者・地域に信頼される学校づくり

港区が目指す子どもの姿

「夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子ども」

港区は、目指すべき子どもの姿を掲げ、生涯にわたり自ら学び続ける意欲を養い、新たな価値を創造する、将来を担う人づくりに取り組みます。

1 教育目標

- 心豊かで思いやりのある人（徳）
- 自ら考え、自ら学ぶ人（知）
- 心身ともに健やかな人（体）

2 目指す学校像

お台場から世界へ ～日本を支える人、世界で活躍できる人を育成する学校～

これからの世の中は、人や物、情報がこれまで以上に世界規模で結びつくグローバルな社会である。日本でも多国籍化が進み、国際都市港区においては8%以上が外国の方である中、このような社会を生き抜き、世界で活躍できる、これからの日本を支えていく人になってほしい。そのためには、これまでの子ども主体の学習に加え、タブレット端末による、多様な教材の活用や思考過程の可視化などを通して、個別最適な学びと協働的な学びを推進し、自ら課題を

もち自ら学び、これからの変化の激しい社会を生き抜く力を身につけていく。また、幼小中の12年間を通し、英語力を身に付けることはもちろんのこと、コミュニケーション能力を高め、「グローバルスクール」の基礎を築いていく。

愛があふれる学校～心豊かな子どもたちを育成する学校～

今の世の中は、テクノロジーの進化、スマートフォンやインターネットの普及によって便利になっている一方で、対面でのコミュニケーションが減少し、人間関係が希薄になってきていると言われている。このような時代だからこそ、直接、人と関わり、お互いをより理解し合い、相手に対して思いやりをもつことが大切である。愛があふれる、そして子供たちが毎日、笑顔で早く学校に行きたい！と思える学校づくりを進める。そのためには、学校のきまりを子どもも大人も共通に認識し、規律ある生活を送る。

そして、人権感覚を醸成するとともに、様々な教育活動や体験学習を通し、多くの人と関わることで、やさしさや思いやりを育てていく。

チームお台場～地域と共に子供を育てる学校～

本校は開校30周年を迎える歴史と伝統のある学校である。しかし、学校・児童・生徒の課題や保護者のニーズ・期待が多様化している現在、学校だけで教育を進めるのは難しくなっている。子供たちの健全育成のためには、幼稚園、小学校、中学校の垣根を越え、教員が一丸となって教育活動を推進していくのはもちろんのこと、なによりも保護者・地域の協力が必要になる。学校・保護者・地域がチームとなって、課題に立ち向かっていく。また、地域にある企業等との連携を積極的に取り入れることも大切にしていく。

3 中期的経営目標と方策

- (1) コミュニティ・スクールとして、「お台場アカデミー学校運営協議会」と連携した教育活動を展開する。地域にある保、幼・小中の接続・連携を重視するとともに、地域コーディネーターと連携し、保護者や地域と協働しながら地域の教育資源を積極的・効果的に活用する。
- (2) 小中一貫教育校として、港陽小・中の職員が連携した教育活動を実施する。

<具体的な取組>

【豊かな心の育成】

- ①「特別の教科道徳」の研究成果の実践の継続（全校道徳等）
- ②いじめ対策校内委員会を設置、アンケート調査やおよびWEBQUを活用した望ましい学級・学年集団の育成
- ③生徒会、代表委員会、レインボー班活動等による自主的活動・自治活動の実施
- ④デジタルシチズンシップ教育の充実（ODAIBA S N S ルールの徹底、セーフティ教室の実施等による情報モラルの向上）

- ⑤教育相談体制の充実（S C、SSW との連携）
- ⑥保育実習、絵本読み聞かせ等による幼・保との連携

【確かな学力の定着・充実】

- ①主体的に学習に取り組ませる複線型授業の実践
- ②大使館や留学生との連携および英語によるコミュニケーション能力の育成
- ③小・中での授業連携（家庭・音楽他）
- ④少人数指導、教科担任制による教科授業（算数・数学、英語他）
- ⑤読書活動の充実（朝読書、読書週間等）
- ⑥モジュール時間を活用した基礎学力の向上
- ⑦地域学校協働としての英語検定、漢字検定等の実施
- ⑧学力調査の分析による授業改善

【健康でたくましい体づくり】

- ①幼・小中合同運動会の実施
- ②体育朝会、外遊び等の充実、ボルダリングウォール等の活用
- ③朝の時間を活用した、持久走等の体力向上への取組
- ④ゲストティーチャーを活用した授業の実施（ビーチバレーボール、パラトリアスロン、タグラグビー、薬物乱用防止教室、感染症やがんについての授業等）
- ⑤健康アップ会議（学校保健委員会）の開催
- ⑥給食を中心とした食育の充実
- ⑦体力調査結果の分析による授業改善

【特色ある教育の推進・保護者、地域との連携】

- ①お台場海浜公園を中心とした環境教育の充実（お台場海苔づくり、セーリングヨットの活動等をはじめ、外部の教育資源の積極的な活用）
- ②地域防災への貢献（お台場学園防災 Jr. ティームの取組、地区防災訓練への参加等）
- ③キャリア教育等への地域の企業・事業所との連携（乃村工藝社、アクアシティ、船の科学館、東京海洋大学等）
- ④地域行事への積極的な協力、ボランティア活動（お台場夏祭り、水辺フェスタ等）
- ⑤お台場水族館やビオトープ等の取組
- ⑥SGDs への理解を深められる学習や活動の推進

【特別支援教育】 学校全体で、特別支援教育に対する理解を深めながら、インクルーシブ教育を推進する。

- ①「さざなみ学級」及び「そよかぜ教室」での、個に応じた教育の充実
- ②各学年通常学級と「さざなみ学級」の連携した学習・活動の推進

【教職員の働き方改革の推進】

- ①お台場ホリデー（平日の休暇取得促進）の設定

- ②長期休業期間の学校閉庁日
- ③Teams・校務支援システム等を活用した情報共有のD X化
- ④地域コーディネーターとの連携
- ⑤スクールサポートスタッフの活用
- ⑥教科担任制講師や部活動指導員制度の活用
- ⑦学校衛生委員会の設置

4 令和8年度の重点目標

中期的経営目標を踏まえ、学校の実態から今年度の重点目標を以下のように設定した。

☆「国際教育の充実」

幼稚園・小学校・中学校の12年間で系統立てた国際教育のカリキュラムを作成する。その中でも今年度については、「スピーキング」に重点を置いた取組を推進する。

☆「ICTを活用した学びの充実」

複線型授業を通し、多様な教材の活用や思考過程の可視化などにより、個別最適な学びと協働的な学びを推進する。年3回の複線型授業チャレンジデーでは、教員の実態に応じた授業を展開する。

☆「基礎学力・活用力の習得」

日常の様子から子供の学力・体力の状況を把握するとともに、体力調査・学力調査を分析し、授業改善、授業外での取組を推進する。

☆「チームお台場への一歩」

どの教員も同じ考えのもと、同じ指導ができるように、学習指導、生活指導のお台場学園の指導方法のスタンダードを活用する。

5 資質能力を育成するための環境整備

資質能力を育成するためには教育内容の充実を図るとともに、学習を支える教育環境を整備することが大切である。教育環境とは、施設や設備だけではなく、児童にかかわる教員の指導力、家庭や地域との連携、外部人材の活用、また、教育活動を支援するシステムなども含まれる。

(1) 自覚と指導力のある教職員の育成

児童・生徒を教え導く教師の人格や力量こそ、児童・生徒の学びへの意欲を培い、一人ひとりの可能性を伸ばすための大きな要因となる。さらに、一人の教員の力では解決できない困難な問題でも、複数の教員が組織的に対応すれば解決できる場合が多くある。

○学校の教育力向上を目指し、教職員の資質向上、組織的対応を進める。

○指導方法を共有するとともに、学級担任という意識ではなく、副担任を含めた学年全体で児童を指導していくという意識を醸成する。

- 管理職による日常の授業観察や校内研究を通して授業力の向上を図る。
- 様々な課題について、学校、学年、などの組織で対応するシステムを定着させる。
- 小学校においては、教科担任制、1年生プレクラスを推進する。

<p><指導のスタンス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導方法を共有し、教職員が一致した指導を行う。お台場スタンダード! ・常に、子供たちはどのように思っているのか、子供たちはなぜそのような行動をとったのか、など児童・生徒の立場を考え指導する。 ・人権尊重の視点に立った言動を心掛け、体罰・暴言等は絶対に行ってはならない。 ・児童のことを考え、ダメなことはダメという毅然とした指導を行う。 ・児童に自らの行動を振り返らせ、これからの生活や行動を考えさせるような指導を行う。 ・児童の情報及び指導内容については、校内で情報共有し、組織的に対応する。

(2) 保護者・地域との連携強化

学校の教育活動を積極的に公開し説明するとともに、保護者や地域の方との情報の共有に努める。コミュニティスクールとして、学校運営協議会とともに、よりよい学校運営を目指す。

- 保護者会の実施方法を工夫し、担任と保護者、保護者同士が意見交換のできる場とする。
- 学校の教育活動を学校だよりやホームページ、Xで積極的に発信する。
- 支援地域人材、企業等、地域の方を授業で積極的に活用する。
- 交通安全をはじめとする安全指導において、学校・保護者・地域で連携しながら児童を見守っていく。
- 年間8回の学校運営協議会を開催し、地域と一体となって特色ある学校づくりを目指す。

6 取組の報告及び評価

(1) 今年度の取組状況については、保護者や地域の皆様に以下の方法で報告する。

- 学校だよりに掲載する。
- ホームページで公表する。
- 授業参観、学校公開日に特色ある教育活動について紹介する。
- 学校運営協議会で報告する。

(2) 目標達成についての評価は、以下の方法で実施する。

- 教員による内部評価を実施する。
- 保護者アンケートを実施する。

○児童・生徒アンケートを実施する。

○学校運営協議会による評価を実施する。

評価結果は、整理し考察を加え、年度末に保護者や地域の皆様にお知らせする。